

になっていくのだと思います。

立ち上げから10年、クリニックも軌道に乗り一段落したので、4月から新しい勤務先に移りました。必要にせまられて始めた“東洋医学”をきちんと学ぶべく、研修日には大学のゼミに混ざっていただき、毎回ワクワクしながら講義を受けています。近い将来、自信を持って“東洋医学”を診療の引き出しの一つに加えることができるようになると思っています。

「開業して思うこと」

ながた内科クリニック 長田 光 司

みなさま、お元気ですか。4期生の長田光司です。現在、那覇新都心天久に「ながた内科クリニック」で院長をしています。平成22年7月に開院して4年が過ぎました。主な診療内容は、糖尿病を中心とした生活習慣病全般、一般内科、甲状腺内科などです。また、自由診療部門もあり、点滴やプラセンタ注射、医療機関向けのサプリメントも扱っています。平成2年に琉球大学を卒業して第2内科（三村悟郎教授）に入局。糖尿病・代謝内分泌内科を専門に進み、高須信行教授、小宮一郎助教授より学位研究と代謝・内分泌疾患の臨床を通じ多数の学会発表をさせていただき、糖尿病専門医の資格を得ることができました。その後、大学病院から国立療養所沖縄病院、県立那覇病院、大道中央病院、おもろまちメディカルセンターで糖尿病を中心として内科全般的診療に携わってきました。各病院では多くの先生方に大変お世話になりました。それまで勤務医を続けることに何の疑問はなかったのですが、開業する4年ほど前から大学医局の先生方、医学部の同期生、同じ職場先生方が次々開業するのを見ていつまで勤務医をするのか考えるようになりました。また、40歳台半ばになり人生の折り返し点をまわったことを自覚し、いつまで当直を含めた勤務医を続けるのか、自分の理想の医療をするには開業しかないし、開業できないと後悔しないか危機感が募ってきました。これまで、大学の医局人事で病院を移ってきましたが、平成19年に初めて自分の意志で、おもろまちメディカルセンターに就職しました。ここが勤務医として働く最後の病院になるだろうと考えていました。開業には、賃貸で家賃を払って開業するのと、自前で土地建物を建てる場合がありますね。私は自分の納得する場所で開業したかったので自前で建てることを選びました（借金が大きくなりリスクを伴いますが）。

なので、場所が大事です。土地探しを始めました。勤務している病院の近くを探しましたが、いい場所がありませんでした。自分で不動産会社を回ったり、病院周辺に売地がないか探し回りました。最終的に選んだ土地は偶然見た新聞の住宅不動産情報からでした。私の目に止まった土地は立地は良かったのですが、広すぎて土地価格が高すぎました。しかし、土地が大きすぎて売れなかったのか、しばらくして土地が分筆されて小さくなり、価格が安くなりました。私に買えと言っているともしました（笑）。さっそう、不動産会社を訪れ地主と交渉し、平成21年3月末に念願の土地を購入しました。わずかな自己資金と大部分は銀行からの借入で賄いました。その際に融資を受けた銀行から開業支援を行っている企業を紹介されました。この企業を紹介されたことが、今後の開業計画がスムーズに運ぶきっかけになりました。その後は、設計を何度も変更したため建築は当初より2か月遅れましたが、平成22年4月末に完成しました。事務員、看護師、助手、事務長と私を含めスタッフ7人で、平成22年7月1日に開業しました。場所が決まってから開業にいたる道筋には多くの出会いや節目がありました。運や人の出会いが次の人との出会いにつながり、何かの波に乗ったようにスムーズに開業に向け進んでいきました。開院4年を過ぎ、患者様も徐々に増えて忙しくなっています。クリニック経営は、職員の採用や収支など勤務医時代には関係なかったことも自分の責任でやることになります。また、医学の知識や技術だけでなく人間としての能力すべてが試されます。いろいろ経験して人間的にも大きくなれるかもしれません。給与を支払うことで職員の生活を支えていることを考えると、一種の社会貢献にもなっています。開業は「人間修行の場」みたいですが、今は開業してよかったと思っています。そのかわり、自分の健康にはこれまで以上に気を付けなければいけないと思います。

近況報告

大阪警察病院 麻酔科 北 貴 志

大阪警察病院は大阪市内のほぼ中央である天王寺区にある地域の中核をなす急性期病院で1次から3次までの救急患者に対応しています。救命センターも併設しておりERも充実しているため研修医の人気の高いようです。

手術対象となる科は消化器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、一般外科、乳腺内分泌外科、形成再建